



2025年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社エルアイイーエイチ
(コード番号 5856 東証スタンダード市場)
代表者名 代表取締役社長 下岡 寛
問合せ先 経理部長 山口 和也
(TEL. 03-6458-6913)

(開示事項の経過) 特別損失の計上、連結業績及び個別業績の前期実績との 差異並びに剰余金の配当（無配）に関するお知らせ

当社は、2025年3月期において、営業外損益及び特別損失を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、本日「2025年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました連結業績及び個別業績の前期実績との差異並びに 2025年3月31日を基準日とする剰余金の配当につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 連結の特別損失

①固定資産及びのれんの減損損失の計上

当社グループにおいて、経営環境の悪化による収益性低下の可能性が生じたため、当社及び当社子会社が保有する固定資産及びのれんにつきまして、投資額と投資期間全体を通じた回収可能額の今後の見通しを比較、検討した結果、回収可能性がないと判断した1,302百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

減損損失計上額の内訳としまして、当社の固定資産8百万円、当社子会社である老松酒造株式会社の固定資産192百万円、株式会社エフミートの固定資産8百万円、株式会社創育の固定資産114百万円、株式会社なごみ設計ののれん149百万円、MAGパートナーズ株式会社ののれん410百万円、づくり株式会社ののれん0百万円、株式会社京竹ののれん16百万円、株式会社フェニックス・エンターテインメント・ツアーズののれん402百万円となっております。

②関係会社株式売却損の計上

当社は、2025年2月14日付で開示いたしました「持分法適用関連会社の異動(株式譲渡)及び特別損失の計上に関するお知らせ」のとおり、当社の持分法適用関連会社である株式会社エス・サイエンスの保有株式のすべてをKAY LEO BROTHERS LIMITEDに譲渡し、特別損失の計上額は未定としておりましたが、2025年3月期において137百万円を関係会社株式売却損として特別損失に計上いたしました。

③ガバナンス委員会関連費用の計上

当社は、2025年2月14日付で開示いたしました「特別損失の計上に関するお知らせ」のとおり、当社の内部統制システム及びコーポレート・ガバナンス等の問題点における事実調査に要した費用51百万円を、ガバナンス委員会関連費用として2025年3月期第3四半期に特別損失に計上しておりましたが、2025年3月期第4四半期におきましても16百万円をガバナンス委員会関連費用として特別損失に計上し、2025年3月期としては67百万円の計上となりました。

④支払和解金の計上及び特別損失の減額

当社は、2025年2月26日付で開示いたしました「和解による損害賠償請求訴訟の解決及び特別利益計上に関するお知らせ」のとおり、当社が提起されていた訴訟について、当社が相手方原告に対して和解金を支払うことで和解に合意いたしました。

当該訴訟におきましては、今期計上しておりました訴訟損失引当金186百万円（訴訟損失引当金繰入額として特別損失186百万円も計上）から和解金額及び諸費用を控除した額を引当金戻入として特別利益に計上する予定としておりましたが、金額を精査し、会計処理について再度検討した結果、特別利益には計上せず、訴訟損失引当金186百万円全額の戻入（特別損失186百万円の減額）を行い、今回支払った和解金90百万円を支払和解金として新たに特別損失に計上いたしました。

（２）個別の特別損失

①関係会社株式評価損

当社の連結子会社において、経営成績及び財政状態の悪化により、当社が保有する株式の実質価額が著しく低下することになったため、関係会社株式評価損として株式会社エフミート 10 百万円、老松酒造株式会社 172 百万円、株式会社フェニックス・エンターテイメント・ツアーズ 425 百万円、MAG パートナース株式会社 453 百万円、株式会社なごみ設計 158 百万円をそれぞれ特別損失に計上いたしました。

なお、本特別損失は連結決算上消去されるため、2025年3月期の連結業績に与える影響はありません。

②貸倒引当金繰入

当社連結子会社に対する当社からの貸付金につきまして、経営成績及び財政状態が悪化している子会社について貸倒引当金を計上することといたしました。

計上する貸倒引当金繰入額として株式会社エフミート480百万円、株式会社創育489百万円、株式会社創研70百万円、株式会社TransCo 150百万円をそれぞれ特別損失に計上いたしました。

なお、本特別損失は連結決算上消去されるため、2025年3月期の連結業績に与える影響はありません。

2. 前期実績との差異について

（１）今期連結実績値と前期実績値との差異（2024年4月1日～2025年3月31日）単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	19,035	△1,525	△909	△1,346	△17 円 98 銭
今期実績（B）	10,311	△1,649	△1,643	194	2 円 23 銭
増減額（B－A）	△8,724	△124	△733	1,541	－
増減率（％）	△45.8	－	－	－	－

（２）今期個別実績値と前期実績値との差異（2024年4月1日～2025年3月31日）単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	599	△659	△130	△1,814	△24 円 22 銭
今期実績（B）	265	△841	△842	555	6 円 35 銭
増減額（B－A）	△334	△182	△711	2,369	－
増減率（％）	△55.7	－	－	－	－

3. 今期実績値と前期実績値との差異の理由

(1) 連結業績について

主要な連結子会社である株式会社ボン・サンテの株式の全てを 2024 年 7 月 1 日付で譲渡した事による影響が大きく、売上高、営業利益、経常利益ともに前期実績値を大きく下回る結果となりました。

一方、当期純利益につきましては、株式会社ボン・サンテの全ての株式を譲渡したことによる譲渡利益の影響で前期を上回る結果となりました。

(2) 個別業績について

個別業績につきましては、当社の売上高の多くを占めている子会社からの経営指導料が、主要な収益源となっております。

しかしながら、連結業績における今期実績と前期実績の差異の理由にも記載のとおり、主要子会社である株式会社ボン・サンテの全株式を譲渡したことにより、当該子会社からの経営指導料がなくなった結果、減収・減益となりました。

一方で、当期純利益につきましては、同社の全株式を譲渡したことに伴う譲渡益を計上したことから、前期を上回る結果となりました。

(3) 今後の見通しにつきまして

主要な連結子会社であった株式会社ボン・サンテが当社連結グループから除外されたことに伴い、収益の柱であった食品流通事業から撤退することとなり、今後は減収・減益を見込んでおります。

これまで取り組んできた事業で培った経験と知見を活かしつつ、時代の変化や新たなニーズに柔軟に対応し、食品流通事業に代わる新たな収益の柱を確立することが、当社の喫緊の課題であると認識しております。

具体的には、酒類製造事業、食肉卸事業及び福祉サービス事業において持続可能な成長を目指してまいります。

4. 配当の内容について

	決定額 (2025 年 3 月期)	直近の配当予想 (2024 年 5 月 14 日公表)	前期実績 (2024 年 3 月期)
基準日	2025 年 3 月 31 日	同左	2024 年 3 月 31 日
1 株当たりの配当金	0 円 00 銭	未定	0 円 00 銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと位置づけ、業績の動向、経営環境の変化、及び中長期的な財務体質の強化を総合的に勘案し、継続的かつ安定的な配当の実施を基本方針としております。しかしながら、主要事業の撤退に伴う売上高及び利益の減少に加え、その他の事業においても原材料・燃料・資材等の価格高騰の影響を受け、収益力の低下が続いております。このような厳しい経営環境を踏まえ、今後の財政状況を総合的に勘案した結果、2025 年 3 月 31 日を基準日とする期末配当につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただきますことといたしました。

株主の皆様には、ご期待に沿うことができず、深くお詫び申し上げます。今後は業績の早期回復と企業価値の向上に向けて全力で取り組んでまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(ご参考) 年間配当の内訳

	1株当たりの配当金		
基準日	第2四半期	期末	年間
当期実績	0円00銭	0円00銭	0円00銭
前期実績 (2024年3月期)	0円00銭	0円00銭	0円00銭

以上